

# 西の菜時記

特集：山口市菜香亭15周年のあゆみ

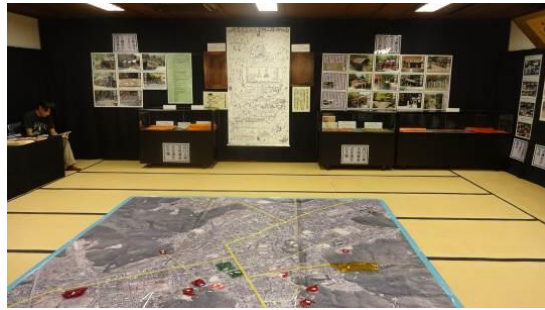
◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

令和元年12月9日発行  
第54号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

伊勢神宮を勧請し、山口大神宮は建てられました。その時の文書「高嶺（このみね）太神宮御鎮座伝記」が残されており、当時の経緯が分かります。この頃は後柏原天皇の時代で、同天皇の「高嶺大神宮」という直筆の書を彫った勅額もいただいています。

また、伊勢神宮内宮の遷宮で奉納される御神宝のみ使われている「屋形紋錦（やかたもんにしき）」の使用が許可されているところも他の神社と違う点です。屋形紋錦は、門外不出の秘紋であり、複製禁止です。その使用を許されていることから特別な扱いが伺えます。他にも、同じく秘紋の「刺車紋錦（さしぐるまもんにしき）」「鶴鶴紋（せきれいもん）」の使用も許可されています。



菜香亭下の間 宝物とパネルで山口大神宮の歴史を展示

## 「いよいよ！山口大神宮」

山口大神宮は、明治時代以前では唯一、天皇からの許しを受け、皇祖（天照大御神）を祀る伊勢神宮の御分霊を勧請した神社です。江戸時代には、「西のお伊勢様」と呼ばれ、防長二州、豊後、筑後からも参拝者が訪れました。現在でも、お正月の参拝者は市内で最も多く、沢山の人が賑わいます。

山口大神宮は来年に創建500年を迎えます。それを記念して、令和元年（2019）9月6日から12月2日まで、企画展「山口大神宮500年の歴史」を開催しました。

## 企画展「山口大神宮500年の歴史」



特別展示の様子 普段は見られない宝物たち



山口大神宮の過去の遷宮の様子を展示

理由が必要で、全国的に見ても二人の天皇の勅額を所有しているのは、大変珍しいことです。どれも普段は一般公開されていないもので、勅額は19年ぶり、狩衣は初公開でした。

## お宝たちがやってきた！

宝物をお借りして期間限定（9月21日～23日、11月22日～25日）の特別展示で、太刀鞘や櫛箱、勅額、鶴鶴紋の狩衣などを展示しました。太刀鞘や櫛箱は伊勢神宮の式年遷宮にて、以前奉納されたのを賜ったものです。狩衣は、平成12年（2000）の遷宮の際に制作されたものです。勅額は天皇の御宸筆を木彫りしたもので、後柏原天皇の勅額「高嶺大神宮」と後陽成天皇の勅額「伊勢」を展示しました。勅額をもらうにはそれなりの



## 実はお引越しいています！

最初から現在の位置に内宮外宮があったわけではありません。山口大神宮は、伊勢神宮と同様に遷宮を行っており、近年だと、平成12年（2000）に行いました。このときが十回目の遷宮です。内宮外宮の地が変わったのは、寛文11年（1671）、四回目の遷宮の時です。それまで東向きに建てられていた内宮外宮の地が、大破したというので土砂崩れがあったのでしよう、現在地に遷されました。現在は南向きに建っています。内宮外宮の地が遷される以前の様子は、山口大神宮所蔵の木版画等で見ることができます。

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

第3回創作展「和気藹々～山口で歴史を感じて～」  
-NPO法人防長史楽会- 9/13～9/15



「山口漫画学校生徒作品展」 10/12～10/14



～令和の風に煌めいて山口で美を楽しむ～  
第1回リラの会トールペイント作品展 10/25～10/27



第4回写真展カメラ片手に漫ろ歩き in 山口 11/13～11/18



<令和元年度 市民ギャラリーの予定> 12・1月

月日	時間	タイトル	主催者
12/20 ～23	9時～17時 (最終日のみ15時まで)	山口の四季を彩るお面展	モーリのクリエイションクラブ in 山口
1/8 ～13	9時～17時 (初日のみ10時から 最終日のみ16時まで)	建築士が撮った建築写真展 ～歴史を伝える山口市内の 近代建築～	原田正彦

出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。  
(お問い合わせ) TEL:083-934-3312

## 山口大神宮の特殊性

今から500年前の永正17年(1520)、ここ山口の地に伊勢の神宮より御分霊が勧請されました。全国を見渡すと、天照坐皇大御神を奉斎する神明社は数多く存在し、山口大神宮もその一つと思われがちではありますが、実は一線を画すのです。それはなぜか…

十四世紀の中頃、大内氏は山口に本拠を置き、西の都といわれる程の繁栄を誇っていました。大内義興の時代、前將軍であった足利義植は京を追われ山口に下り大内氏をたよりました。義興はこれを奉じ、永正5年(1508)に上洛し、以後官領代として將軍に代わり日本の政治にあずかります。

京都滞在中の永正11年(1514)、義興は伊勢の皇大神宮に参拝します。その際、神宮の森厳な神霊にうたれ山口に勧請したいという気持ちをもちました。永正15年(1518)、いよいよ山口に帰った義興は、すぐに太神宮の勧請に向け準備を進めます。そして永正16年11月に外宮、翌17年4月に内宮が落成し、義興は朝廷に太神宮勧請に奏聞し勅許を得ることが叶います。

他の神明社との明らかな違いは、ここに 있습니다。ひとつは「皇大神宮」「豊受大神宮」それぞれを勧請したということ。ひとつは、朝廷よりの勅許を得ていることです。このふたつの事柄が叶った背景には、大内義興公という人物が朝廷、將軍からの信頼が厚く、財政的にもこれを叶えることができたからに他なりません。

以後江戸時代においては、山口の大神宮は「西のお伊勢さん」と親しまれ、中国地方、九州をはじめ西国より多くの参拝をいただくこととなります。



皇大神宮……伊勢神宮の内宮 豊受大神宮……伊勢神宮の外宮 山口大神宮 天照坐皇大御神を祀る内宮